

50 years of World Cultural Heritage

世界 文化遺産の

50年

日本の貢献のこれまでとこれから

2024年 1月 20日(土) 13:00 ~ 17:30 (12:30開場)

京都大学 国際科学イノベーション棟 5階 シンポジウムホール

対面開催 (定員 250名)・オンライン同時配信 (YouTube)

入場無料

事前申込制

日英同時通訳

世界文化遺産の50年

日本の貢献のこれまでとこれから

2022年はユネスコ総会で世界遺産条約が採択されてから50周年、また日本が同条約を批准してから30周年という節目の年でもありました。今日では「世界遺産」という言葉は、遺産保護の世界だけでなく一般社会にも広く定着しています。条約批准以降の日本の動きを振り返れば、世界遺産を糸口に国際的な議論に参加することで、日本の遺産保護の考え方や取り組みに対する世界的な理解を広げてきた一方で、日本の文化財保護制度が世界遺産制度から受けた影響も決して少なくありません。また、今や世界遺産の保存と活用は、日本の国際協力でも重要な一分野を占めています。

2024年、登録30周年を迎える世界遺産「古都京都の文化財」を擁する京都市は、2017年に地球環境問題の一つとして文化観光の質の向上を盛り込んだ「京都宣言」を採択するなど、世界遺産を有する都市として弛みない先進的な取り組みを続けています。本シンポジウムは、そのような京都の地で、世界遺産という制度が文化遺産保護に果たしてきた功績を辿るとともに、その発展の中で日本が果たしてきた、あるいは今後果たすべき役割についてあらためて考え、世界遺産のこれまでとこれからを見つめる機会にしたいと思います。

プログラム ※プログラムは予告なく変更する場合があります。

- 13:00 **開会挨拶** 青柳 正規 (文化遺産国際協力コンソーシアム会長)
- 13:05 **趣旨説明** 「世界文化遺産の50年：はじめりとこれまで」
藤井 郁乃 (文化遺産国際協力コンソーシアム事務局 アソシエイトフェロー)
- 13:15 **基調講演** 「世界遺産制度の持続的な実行における日本への期待 (仮)」
エルネスト・オットーネ (ユネスコ文化担当事務局長補)
- 14:00 **講演** 「世界遺産条約と日本の貢献 アジアから声を発する意義と日本の役割」
稲葉 信子 (筑波大学 名誉教授)
- 休憩 (10分) ---

世界遺産保護における日本の実践

- 14:45 **報告1** 「文化遺産の研究・保護に
関わる技術移転の取り組み」
庄田 慎矢 (奈良文化財研究所 企画調整部国際遺跡研究室長)
- 15:10 **報告2** 「持続可能な観光が
世界文化遺産に果たす役割」
熊田 順一 (JTB 総合研究所 主席研究員)
- 休憩 (10分) ---

- 15:45 **パネルディスカッション**
モデレーター：西 和彦 (文化庁 文化資源活用課 文化遺産国際協力室 主任文化財調査官)
パネリスト：畠山 健太郎 (外務省大臣官房国際文化協力室長)、上記登壇者
- 17:25 **閉会挨拶** 岡田 保良 (文化遺産国際協力コンソーシアム副会長)

会場・アクセス

京都大学 国際科学イノベーション棟 5階シンポジウムホール
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学正門より徒歩2分



申し込み方法

右記載 QRコードよりお申し込みください。
詳細は、ウェブサイトをご覧ください。
申込締切：2024年1月12日(金)
<https://www.jcic-heritage.jp>



<https://onl.sc/errvC2T>

お問い合わせ

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局
〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43
(独) 国立文化財機構 東京文化財研究所内
E-mail : consortium_tobunken@nich.go.jp
Tel : 03-3823-4841 / Fax : 03-3823-4027
X @jcic_heritage facebook.com/jcicheritage/